

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : インドでの留学と就労を通して学んだこと
授業特別協力者名 : 柴田 友稀 氏
実施日時 : 2023年6月15日(木) 5時限
担当教員名 : 栗原 文子
授業科目名 : GPP グローバルキャリア/ベトナム I
履修者数 : 6名

実施結果

6月15日(木)17:00から18:10ごろまで、柴田友稀氏によるオンラインの講演が実施された。参加者は商学部のグローバル・プロフェッショナルプログラムの履修者(他学部履修の学生も数名含む)で、夏季休暇期間中に、ベトナム、タイ、オーストラリアへのインターンシップを予定している計18名であった。柴田氏は現在メキシコ在住のため、Zoomでの開催となったが、双方向のやり取りも含め、有意義な時間となった。

柴田氏は2017年に商学部を卒業し、旅行会社に就職し、2年間のインド駐在の経験がある。講演では、ベーシック演習のゼミ研修旅行でインドに行ったこと、インドに強く惹かれたこと、英語を集中的に勉強し、中大生として初めてインドに交換留学生として派遣されたこと、その後、インドで働く夢を追い求め、2年間インドに駐在したことなどについて、様々な写真やエピソードを交えながら、わかりやすくお話を進めてくださった。

学生たちは、異文化の環境で生活したり、仕事をしたりする状況をより具体的にイメージすることができ、難しいと感じる局面になったとき、どのように対処したらよいかというヒントも得ることができたろう。

柴田氏は、異文化で生活をする中で、理解することが難しい状況や人に出会った時も、その経験を過剰般化して、文化全体に負のレッテルをはるのではなく、あくまでその個人との体験として受け止めるべきだと述べていたことが印象に残った。それは、自分の個人的な経験に基づいて、ある民族や文化全体を判断し、偏見や差別を引き起こすことがないようにするために、重要な観点であり、意識的にそのように行動している点に感銘を受けた。また、留学に必要な語学要件に達するために、短期間で集中して語学学習をしたことや、自分が好きだと思うことに対して、リスクや不確実なことがあっても飛び込んでみることに、またいくつかのネガティブな経験があっても、日本にいただけでは得ることのできない素晴らしい学びや出会いを経験したことについて、熱心に語ってくださった。

講演後に質疑応答の時間をもったが、学生から、現地での友人の作り方や、日本人の働き方の特徴、海外駐在と現地就職の違いなどについて質問があり、活発な交流の時間をもつことができた。